

「主の恵み尽きることなく」 第二章

健やかなる時も、
病める時も。

鍛治川 紀子

「主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。
あなたは、その翼の下に身を避ける。
主の真実は、大盾であり、とりでである。」

詩篇91篇4節

この後の文章は、私に病が発覚してから入院、手術、退院後の療養生活に至る、初めから終わりまで、主がどのようにに憐れみ深く、私を守り、導き続けてくださったかを、記録したものです。



異変のはじまり

私の記憶が確かならば、あれは確か今から2年ほど前のこと。ある夜、胃の周りが痛くて眠れないことがありました。右を向いても左を向いてもお腹をさすっても、痛みは治まらず、ほとんど一睡もできない状態でした。食べ物を控えたり、胃薬を飲んだりしているうちに、何とかその症状が治まり、いつしか忘れてしま

う。しかしまた数ヶ月経つと、その症状がぶり返し、周りの人が心配して度々祈ってくれるようになりました。その祈りのおかげで、症状が治まって癒されたと感じる。そんなことを繰り返しながら過ごした一年後のある日、またもや胃の鈍痛が始まり、さすがの私も、もしかして、悪い病(癌)ではないかと疑い始めました。

ネットで消化器内科の専門のクリニックを探し、胃力メラの検査などを苦痛なく行ってくれるところがあるというのを知り、思い切って胃の検査をもらうために受診しました。

2022年5月、私は札幌市内の新琴似にある「Kクリニック」で胃力メラの検査を受けました。その時の医者のお見方は、画像で私の胃の内部を見せてくれたながら、「どこにも悪いところはありません。この胃腸なら癌になる事はないと思いますよ」と力強い言葉で励ましてくれました。

「あくよかった、一安心。」癌ではなかったんだと思うと、急に症状が良くなって、あく、もう癒されたかと、胸を撫で下ろしました。ところが、2023年5月、胃力メラの検査をしてから約1年後、またしても同じような症状が続くので、今度は問題は胃ではなくて、胆嚢とか腎臓とか膵臓とか肝臓に何か異変があるのではないかと疑い、自分からこのクリニックに行つてエコー検査をしてもらうように頼みました。と言うのも、その頃、卒業生のある姉妹が胃が痛くて、胃の検査をしたけれどもなんでもなくて、その後も痛みが続くので、さらに検査をしたところ胆嚢炎だったということがわかり、胆嚢の除去手術をした、そんな話が耳に入つて来たからなんです。それで私ももしかしたら胆嚢が悪いのかもしれない。

そう思つてエコー検査を希望したのです。そのエコー検査の結果は私が疑っていた「胆嚢にも膵臓にも腎臓にも異常はありません。肝臓には少し脂肪肝があるけど、異常はありません」と言う診断でした。しかし私が「でも先生、確かにこの辺にいつも鈍い痛みがあるんです」と訴えると、先生はその辺をぐいぐいとエコーの検査器を当ててさらに詳しく調べてくれました。「あ、先生そこ、そこが痛いんです」と言うのと、「あく、ここは大腸ですね」と言われたので、私は「そんな上の方に大腸があるんですか?」という先生は「ここは大腸の上の部分で、確かに何か白いもの

が見えますね。もしかしたらこれはただの便の塊かも知れませんが、けれども、まあ念のため大腸も調べてみたほうがいいかもしれませんね」と言う診断でした。

「分りました。大腸検査は苦しいって聞いていますけれども大丈夫でしょうか」と私が言う、「苦しくなく眠っている間にやる方法がありますから大丈夫ですよ」と先生は言うてくださいました。そこでその大腸検査の日を5月30日と予約して帰宅しました。

前日の夜から絶食して、当日は早朝から大量の下剤入りの水を飲み、トイレに通い腸を完全にきれいに空にしてから、午後の大腸検査に臨みました。

検査が終わってから先生は前と同じように、画像を見せながら、何の異常もありませんでしたよ、と言ってくれるかと思いきや、「上行結腸にがんが見つかりました。結構、大腸の通路を塞ぐほど広がっています。検査してよかったです。これはすぐに手術が必要だと思えます。ここではできないので、手術のできる病院を紹介しますから、早速受診してください」と言われました。

まさかの大腸癌！

大腸がんと聞いた時の私の思いは、意外と冷静で、あくやっぱりそうだったのかと言う思いと、なんで私が癌に？と言う思いが同時に交錯しました。しかし先生の言葉では一刻の猶予もない感じだったので、私は予約した6月15日に、紹介された札幌東区の病院を受診することにしました。

祈りの闘い

しかし、それまで約2週間もあるので、私はすぐに信頼できるといなし手の皆さんに祈りを依頼しました。そのリクエスタの内容は、6月15日までに私の体内にできた癌、上行結腸癌が主イエスの御名により消えてなくなるように、全能の神の癒しの力によって完全に癒されるように、神の栄光の表れとなるように祈ってほしい。そついうりくエスタでした。執り成しの祈り手の方々は、すぐに私のためにリクエスタ通り信仰による祈りを捧げてくれました。

そして、6月15日11時、予約時間の少し前に受付をして3階の消化器内科の待合室で夫と2人で待っていました。待てど暮らせどお呼びがかからず、なんとそれから2時間半待たされました。やっと名前が呼ばれて診察室に入ると担当はY・Tさんという名の若い医師でした。

Kクリニックから、持ってきた検査結果の資料を見ながら、改めて、私の大腸がんがどのような状態にあるかの説明を受けました。癌のできている箇所の通路が非常に狭くなっており、腸閉塞が心配されるということでした。

受診時間は10分ほどでした。その後お昼ご飯を食べる暇もなく、午後からは様々な検査の場所へと導かれ、心電図検査、肺活量検査、血液検査などを受け、結局終わったのは午後4時過ぎ、疲れ果てて帰宅しました。

その後検査入院をして、更に詳細な検査と、もう一度大腸の検査をすると言ったことが伝えられました。「えーっ、主よ、また、あの大量の下剤を飲むんですか？」と、少し憂鬱な気分になったのを覚えています。

検査入院は6月22日から24日と言われ、入院する際の詳しい説明を親切な看護師さんから受けて、その準備に取り掛かりました。

この日、消化器内科のT医師と入院の説明をしてくれた優しい看護師さんに、自分がクリスチャンであることを伝え、自分の証の小冊子をお渡しすることができました。

検査入院後の受診日は、7月4日と告げられました。その時は、内科の先生と外科の先生から、どのような手術になるのか、詳しい説明があると言ったことでした。

マイク口波治療との出会い

多くの方が私の癌の癒しを祈ってくださる中で、横浜のスコット・ダウマ先生の奥様の直美さんが、一冊の本を私に送ってくださいました。その本は横浜の前田華郎医師が開発した、癌活性消滅療法(EAT)と言ったものの紹介で、タイトルは「がん治療に苦痛と絶望はいらぬ」というものでした。著者の前田医師は、癌で苦しむすべての患者さんのために、副作用のないマイク口波で、癌を消滅させるという治療法と機器を開発した医師でした。

その方が書かれたこの本を、私はその夜のうちに貪るように読み終えました。

前田医師は、長年医療に携わる中で、かねてから癌の三大医療と言われている、手術、抗がん剤治療、放射線治療には副作用も強く、限界を覚えていました。さらに「自身が前立腺癌になったことで、益々熱心に、これに代わる代替療法がないものかと、何年もかけて必死に研究を重ねました。

マイク口波が人の体内にある、熱に弱い癌細胞だけを破壊し、他の正常な組織にはなんの害も与えないということ突き止めた前田医師は、まず、動物実験をし、何の副作用も出ないことを確認した上で、今度は「自身の体に試験的にマイク口波を照射して、同じように何の副作用もなかったこと」で確信を得ました。

そしてこの治療法を実際の癌患者の方(余命を宣告されてなすすべがないと言われた患者さんで、自ら希望された方)に、マイク口波の照射を行うようになりました。

はじめのうちは何の変化もないように見えたが、継続していくと、ある時から目覚ましい変化が現れて、なんとその肺がんが余命2ヶ月を宣告された患者さんの体の中から、癌活性細胞が消え去って、その後何年も元気に普通の生活ができるようになった。そんな驚くべき実例が書かれていました。

すべてに効くと言っわけではないけれど、他にも5000例に及ぶ様々な症例が記されていました。いろいろな種類の癌がどのような経緯で改善、又は、癒されていったのか、具体的に記されていました。

再発も少ないし、たとえ再発したとしても、さらにマイク口波を照射することによって、その癌活性細胞を消滅させていった事例がたくさんその本には書かれていました。

この本を紹介してくださったスコット先生、直美先生の教会のスタッフの姉妹が乳がんにかかった時、初めは乳房を全摘しななければいけないと言われたのに、そのことに平安がなく祈っていたところ、ハワイの牧師先生からこのマイク口波の治療法を紹介され、手術はしたものの、全摘ではなく、小さく癌の部分だけを切除した後、3ヶ月ほど東京銀座のアドバンスクリニックに通い、結果的に完全に癒され、それから数年経つけれども、再発もなく、元気に神様に仕えていると言う実際の証も聞くことができました。

私は早速その病院はどこにあるのか調べましたが、残念なことにそれを開発した前田医師のアドバンスクリニック横浜は、私が高齢となり限界を感じた結果だそうです。しかし、前田医師がこの治療法をなんとか日本全国の若い心ある医師に引き継いでほしいと願っていたところ、マイク口波の治療で、余命2ヶ月から生還した人の話を聞いた北海道函館のH医師が、同じように、これまでの、癌の治療法に限界を感じていて、この話を聞いたときにぜひその治療法を学びたいと、再三再四横浜の前田医師のもとに通い、前田医師から条件付きの認可をもらって、函館で開院していたことがわかりました。その名もアドバンスクリニック函館と、前田医師のお墨付きの名前を冠した病院でした。前田医師は癌で苦しむ全ての人のために、これは神が与えた治療法と言える

から、この治療法を決して金儲けの道具としてはならない。何度申請しても日本の医療体系の壁は厚く、保険適用になつていないため、治療費は全額患者の負担となります。それゆえに、患者の負担を考えて、できるだけ最小限の医療費にとどめること、という条件に心から同意して認められた結果でした。

その後、東京にも、同じような志を持つ若い医師がいてほとんど同時期に、東京でもアドバンスクリニック東京が開院、今では日本全国に14カ所開院されています。

私にとっては一番近いのがやはり道内の函館であることから、何度か札幌と函館間を往復して、このマイク口波の治療を体験することになります。

札幌と函館の距離は意外と遠く、車で行くなら高速を使っても片道4時間15分位、下道を通ると6〜7時間もかかってしまう。とても日帰りできる距離ではありません。しかし私はぜひ一度これを試してみたいと言う思いに駆られました。

そしてまず6月22〜24の検査入院の前に、函館に行くことと決心しました。感謝なことに、電話すると直前の6月20日と21日の両日の予約が取れました。お休みをもらい、夫に運転してもらって高速で行きました。そして20日の午後2時に、はじめての受診。

H医師は本に書いてあった通り、金髪のユニークな風貌の医師でしたが、オリングテストという独特の検査方法で、癌の活性があ



るあたりを突き止め、そこに向かってマイク口波を照射するという方法で、私も早速マイク口波の照射を受けました。

お腹周り全体が前から後から暖かくなるような感じで、痛みもなく何の副作用もなく、数分で終わるといのがこの治療法の特徴でした。函館で一泊して、翌日の午前中にも、そのマイク口波の照射を受けました。湯の川温泉の行きつけの宿に一泊した翌朝早く、私はデボーションの中で、天の父からの力強い語りかけのお言葉を聞きました。

天のお父さんからの励ましのことば

6月21日早朝

「大丈夫だよ！安心しなさい！！大丈夫！！

わたしがあなたを守るから。

全き愛は恐れを締め出すと言っただろう？

わたしのあなたへの愛は完全で揺るぐことはない。

だからわたしに信頼してすべてを委ねなさい。

わたしの愛する子よ、

わたしの愛の中に憩い安らぎなさい。

わたしはいつもあなたと共にいる。

わたしがあなたのうちに送ったわたしの霊が

いつもあなたのうちにあつて、あなたを慰め励ます。

あなたは病院の中でもわたしを

証しする準備をしていなさい。

わたしはあなたを通して働く。

あなたの証を通してわたしを
求めるものが起こされる。

あなたはいつも生ける言葉を語るよう、
準備していなさい。

苦しみ悩み、失望しているものに、

希望の言葉、いのちの言葉を語るのです。

手を伸ばしなさい。

わたしはあなたの手を通して、人々の心と体を癒すから。

もう一度言います。

あなたは自分のことで、恐れる必要はない。

わたしは全ての状況をおさめ、

その中に生きて働く主であるから。

任せなさい。

わたしはすでにあなたのために、

とりなすものを送った。

彼らはわたしの忠実なしもべで、

わたしの言い送ったことを成し遂げるために、

わたしと共に働く、同労者だから。

感謝のいけにえを捧げなさい。

賛美のいけにえが絶えずあなたの口から

溢れ出るようにしなさい。

賛美の只中にわたしは住み、

賛美の只中で、癒す主であるから。」

私の祈りの応答

「アーメン、主よ、お言葉を感謝します。

あなたを愛し、心から信頼して、すべてを委ねます。

わたしに関わる全ての人を祝福してください。

夫を守り励まし、祝福してください。

とりなしてください。全てのあなたの同労者を油注ぎ、

祝福してください。

私の愛する者たちを特別に守り、祝福してください。

私を祝福の器として、これからも用いてください。

あなたの愛を、もっともっと流していくものとしてください。

言葉と行動で愛を表すものとしてください。

この時を感謝します。

祈りを聞かれる主よ、あなたを賛美します。

主イエスの御名によって、アーメン！」

この主からの語りかけを聞いた時、私は悟りました。

手術する前に、奇跡の御手を持って私の癌を消し去ることは、全

能の神様にとって、不可能なことではないけれど、今回、私がこ

のような病になることを許された主には、私にはわからない良い

計画があつて、あえてすぐに癒すことをせず、入院や手術を通し

て、私が病院の中で、主を証しすることを望んでおられる。これ

が私に与えられたミッションなんだと。

主は少し後に、私に、「こうも言われました。

「これはあなたが、かつて、わたしに祈った祈りの答えでもあるんだよ」と。

私は病気になるように祈った覚えはありませんが、クリスチャ

ンばかりに囲まれて過ごす日々の中で、未信者に触れる機会が減

っていた私は、魂の救いに飢え渴いていて「主よ、かつてのよう

に、私の証、伝道を通して、救われる魂を起こしてください」と、

祈っていたのです。

手術に対する不安が全くないといえ嘘になるけれど、神様の

このお言葉で、私は大きな平安を受け取ることができました。

主は最善をなされるお方、だから全き信頼を持って、全てを主に

委ねようと。

前田華郎医師も本の中で言っていた

ように、大腸がんの場合は、マイクロ

波だけで消滅させる事は難しく、逆に

腸を癒着させる原因になったりするの

で、やはり、手術によって腫瘍を取り

除き、その前後に癌活性性細胞をつぶし

ていくのがいいという診断でした。そ

れで、もう一度7月4日に紹介された

病院を受診する前に、6月27日、28日と予約をして、次の週も

函館まで出かけていきました。



28 日朝のみじりば

「待ち望め。主を。雄々しくあれ。
心を強くせよ。待ち望め。主を。」詩篇 27篇14節

私はこのH医師にも、自分がクリスチャンであって、全能の神様に信頼していることを証しし、証の小冊子をお渡ししました。H医師はそれを手に取るたびに一部に目を通され、驚いたように、質問されました。「これって、実話？」私は笑いながら答えました。「はい、すべて、私の人生に起こった本当のお話です」と。次に診察室に呼ばれた時、H医師は「自分の方から話しかけてこられ「前田先生もクリスチャンですよ。つい先日、学会で横浜に行つたときお会いしました。90歳になられて、少し耳が遠くなつたけれど、お元気でしたよ」それを聞いた私は嬉しくなつて「ハレルヤー益々希望が湧いてきました」というと、その診察室の中は明るい笑い声に満たされていきました。ハレルヤー！

H医師は、いつも積極的な言葉で励ましてくださり、私の手術に関して「この程度なら腹腔鏡手術でいけるとおもいますよ」と言つてくださいました。

82歳になるこの年まで入院も、手術も1度も経験のない私にしてみれば、いきなりお腹をバツサリ切られるのはなんとしても避けたいところ、できれば腹腔鏡手術をやってほしい。そんな思いがありました。

セカンドオピニオンあり？

しかしネットで、紹介された病院の評判を見ると、それほどその面において熟達した医師がいるようには思えず、「このあたりからセカンドオピニオンも考えるべきではないか」と言う思いが湧き上がってきました。そしてネットで大腸がんに関してどの病院が経験豊富で優れているのか、安心して任せられる医師がいる病院はどこか、調べ始めました。

癌と言えば一番先に考えるのは、がんセンターですが、こと大腸がんの手術に関して、□□も含めて最も評判が良かったのは札幌のT病院でした。次に今まで健康診断などで、度々利用していたK病院も症例が多く、この手術に関しては経験豊富な医師がいるような感じでした。ですから、私としては紹介された病院の外科の先生がどう判断するか、それによってセカンドオピニオンもあり得るかなと考えていたのです。

執刀医となる医師との出会い

しかし、7月4日に初めて、外科のT医師にお会いした時(第一印象は、若い先生だなという感じでしたが)彼の説明を聴き、誠実な態度を見、わかりやすい正直な現状の説明、そして「手術の方法は、腹腔鏡手術でやります。私はその資格を持つている医師です」と言われ、その腹腔鏡手術のやり方まで詳しく説明してくださったのを聞いた時、私も夫もこの方にお任せして大丈夫だと言う確信と平安が与えられました。確かにこの医師も専門は胃

がんの方で、大腸がんに関しては、症例はまだ他の病院と比べて少ないものの、ある意味自信に満ちたこの医師の姿勢に信頼が持てました。

この段階でセカンドオピニオンのアイディアは消え去りました。この医師にお任せしよう。不思議にそんな確信が与えられたんです。勿論、この医師にも、私は自分がクリスチャンであって、全能の神様に信頼していることをお伝えし、今日から先生のためにもお祈りさせていただきますとお伝えし、私の証の小冊子もお渡しすることができました。

後になって、この病院は神様が私のために用意してくださった最善の病院であったことを実感するようになるのです。

主治医のT医師を始め、この病院で医療看護、リハビリにあたる医療関係者の人々が、誠心誠意、皆、優しく、親切に患者の立場になって、診察やお世話をしてくださることを体験して、この病院にして本当に良かったなと思わされたのです。

私の手術を担当することになったT医師の見立ては、内科の先生の見立てよりもさらに厳しく、当初Kクリニックでは、ステージ2と診断されていましたが、CT検査の結果などを見ると、リンパ腺に散らばりも見えるし、思ったより深く大腸の壁に入り込んでいたので、限りなくステージ3に近い状態であること、また糖尿の持病もあるので、手術までにその数値を下げるようにと指示されました。そのためいつも通っているクリニックに行ってもう少し強い薬を処方してもらいました。こちらの病院で検査をする2日前にTクリニックで検査したときには、ヘモグロビ

nA1cの数値が7・1でしたが、その2日後の6月15日にこちらの病院で血液検査をしたときには、何故かその数値が8に上がっていました。

主治医はこの数値を、7・4以下まで下げないと手術はできないと言おうようなことを言われました。つまり糖尿病があると合併症が起る危険性があると言ったことでした。それから私はずっと食べ物にも注意し、Tクリニックで処方された薬も飲み、数値が下がるように祈りながら努力しました。その結果8から7・3まで下がって、何とかギリギリセーフで予定通り手術を行うことができる体制が整いました。

入院、手術日が決まる

その日決まった事は、入院は24日曜日、手術日は7月26日水曜日ということでした。どうしてそんなに間が開くのかと聞いたところ、手術が立て込んでいて、多くの救急患者にも対応している病院ならではの事情によるものということがわかりました。待っている間に癌がもっと進行してしまうのではないかと不安が少しはありましたが、しかし私にとっては、また神様がお腹を切る前に時間の猶予を与えてくださったことを恵みと捉え、その間にまた、たくさんの方に祈りを依頼しながら、3度目の函館にマイク口波の治療を受けに行くこともできました。入院手術直前に、私は3度函館に行き合計6回のマイク口波を受けることができましたのです。ここまでの全ての費用も満たされたことを感謝します。

検査入院時と術後の素敵なお出合い

6月24日～7月28日

手術に先立ち、2泊3日で検査入院をした時、私は1人の素敵な女性と出会いました。4人部屋の窓側に位置したベッドで、私は、とても穏やかで心静かなひとときを主と共に過ごしていました。ピンクの爽やかなカーテンで仕切られたその空間は、まるで至聖所のように思えて、あゝ主がここにおられる。私と共におられる。このお方を賛美しよう。このお方を礼拝しよう。

主よ。あなたを慕い求めます。あなたに心から信頼しますと、祈ることができました。

折しも、2泊目の6月23日金曜夜は学院で合同賛美祈り会が行われており、学生たちが素晴らしい賛美をリードし、夫が熱いメッセージを語っていました。なんと私はその様子を病院のベッドの上でオンラインで全て見る事ができ参加することができたのです。素晴らしい特権でした。神の臨在を強く感じる夜でした。

様々な検査(CT検査やエコー検査、そして再びの大腸検査を含む)を終えて、検査入院から退院する土曜日の朝、私はどうしても、同室の向かいのベッドに入院している1人の女性に、話しかけたくて、機会を狙っていました。刻々と退院の時間が迫る中、カーテンで仕切られていて顔も見ることができない、その1人の若い女性にどうしても声をかけたくて、主よ、聖霊様、助けてください。導いてください。勇気を与えてくださいと祈っていました

た。そしてそろそろと彼女のベッドのほうに歩み寄り、そーっとカーテンを開けて話しかけました。

「突然ごめんなさい。私は向かいのベッドに検査入院している鍛冶川といいます。少しお話しいていいですか？彼女は嫌な顔もせずうなずきました。私は立て続けに「突然ごめんなさいね。先生たちのお話が少し聞こえちゃって、お若いのに何の病か分からずに検査中なんです。実は私は大腸癌なんです。そしてこの病院で手術することになっているんです。でも私はクリスチャンなので全く恐れていません。神様に信頼しているので大丈夫、そう思ってるんです。名札を見てお名前を知りました。Yさんですよ。Yさんはまだお若いのにどんな病状か分かりませんが、必ず神様が癒してくださるように、あなたのために祈りしてもいいですか？」

神様は、あなたを愛し、その人生に素晴らしい将来の計画を持っておられるんですよ。そして、その計画は良い計画なんです。だから今の病が完全に癒されて祝福された人生を歩むことができるようにお祈りさせてください」そう言つと私は彼女の肩に手を置いて祈り始めました。なぜだかわからないけれど、私の心の底から目の前にいるYさんへの愛が湧き上がってきて、涙が溢れてきました。祈りながら涙を流しながら彼女のために祈っていました。彼女も少し涙ぐんでいたように見えました。祈り終わって彼女を軽く抱きしめて、それから私の証の小冊子を渡しました。「これはね、私がイエス様に出会ってからどんな風に変えられたか、どんなに神様の恵みと祝福を受けたか、そういうことが書いてある本なんです。ぜひ読んでみてください」そう言つてお渡しすると、うれしそうに微笑んで「ありがとうございます」と早

速ペラペラと本をめくって読み始めようとするYさんでした。そうこうするうちにすぐに退院の時間が来て、彼女とはそれで別れました。

「Yさん、またお会いできることがあればお会いしましょうね。それまでお元気でいて下さいね。さようなら」と手を振ってお別れました。それ以降ずっと彼女のことを心の中から離れず、聖霊様が促してくださるたびに、彼女のために祈り続けていました。

奇跡のような再会

それからちょうど1カ月後の7月24日に私は入院し、個室に案内され、予定通り26日に手術を受けて、術後の最も辛い苦しいところを通っていた時に、私の前に突然彼女が現れたのです。「私、M・Yです」と名乗ったその人は、この病院の看護師でした。訳がわからずキョトンとしている私に彼女が話しかけてきました。「5月頃から入院を繰り返し検査していた時、鍛冶川さんが祈ってくれた、M・Yです」

「えーっ、あの、Yさん?」

驚いて名札を見ると、ほんとに「M・Y」と書いてあるではありませんか!

私は驚いて「あのYさんなの?あなたはただの患者さんじゃなく、この病院で働く看護師さんだったの?しかも私が手術した後にお世話してくれたあの親切な看護師さんが、貴方だったのね」

なんという事でしょう!信じられない!本当に奇跡のような再会でした。神様って、なんて素敵なんだろう。こんな出会いを用意してくださるなんて。嬉し涙が次々と溢れてきました。彼女もうれしそうに言葉をかけてくれました。

「手術の前から鍛冶川さんのこと気づいていました。でもご挨拶するタイミングがなくて、術後はとっても苦しうにされていたので、声をかけづらくて、数日経って今日、ようやく少しお元気になられたので思い切って声をかけました。あの時いただいた本も読みましたよ。感動しました。私もまた会えて嬉しいですよ、そう言ってくれたんです。こんなことって神様にしかできないことですよね。」

ああ主よ、ありがとう!

あなたの大きな愛と励ましを感じます。

ありがとう主よ!

あなたの御名を賛美します。

ハレルヤ!!

そしてその後も、入院期間中ずっと、彼女の救いを願って、とりなし祈り続けていました。

7月16日 日曜日

入院前最後の礼拝で、私は久しぶりにソングアシストの奉仕をしました。そして、その前の週には、皆さんの前で、何の恐れもなく手術に臨めること、二つのビジョンを持って、これからの入

院生活を送りたいと証しました。一つは病院の中で出会うすべての人に、感謝を持って証しすること。

そして、すべての癌で苦しむ人たちの希望の星になること。それを聞いて、何人もの兄弟姉妹がとも励まされたと、言ってくれました。そして、16日の午後、千葉から私に会うために来てくれた、息子の妻の弘恵さんと、孫の葉月に札幌駅で会い、2条市場に行つて一緒に海鮮丼を食べてから、旭川の健太に会いに行く2人を見送りました。明るいまわりの花束を準備してプレゼントしてくれた上、たくさんのおまじの言葉を持って私を力づけてくれた愛する2人に心から感謝しました。そして未だクリスチャンではない2人に私はお願ひしました。私のために祈ってくれる時、必ず主イエスの御名によってお祈りしてね、と。2人ともそのように祈ってくれたと信じています。私も2人を心から愛し、その祝福を祈りました。

ついに26日手術の日

手術に対する恐れはなかったけれど、私はこの時まで、この手術がどれほど大変なものか、そして術後にやってくる苦しみなどがどれほどのものなのか、想像すらできていなかったのです。

ただ、たくさんのおとりなし手の方々に、どんなに優秀な医師であつても、人間である以上、完全ではないので、全能の神様が執刀医の手を握り、完璧な手術を行なつてくださるように、又、手術室の中には、天使がいて補佐する医師や看護師さんを助けてく

ださるように祈つてください、とお願ひしていました。主はその祈りに答えてくださったと信じます。

私は手術着に着替えて、看護師さんに導かれて9時15分に手術室に入りました。前もつて麻酔科の医師から説明を受けてはいましたが、いきなり、背中の真ん中の脊髄のあたりに、ブスリと注射針を刺され、4〜5センチも深く刺されたその穴に、細い管が差し込まれ、そこから痛み止めの麻酔薬が流れる仕組みでした。その後は全身麻酔が施されたため、手術が終了するまで、私自身はそこで何が、どのように行われたのかを知る由もありませんでした。

ただ、意識が戻つて、執刀医の「鍛治川さん、手術が終わりましたよ」の声が聞こえた時「先生、今何時ですか？」と尋ねていました。先生は「3時半ですよ」と答えてくれましたが、そこで初めて入室してから6時間以上も経過していたことを知りました。後で執刀医のT医師から夫への報告の言葉を聞いて分かったことは、思ったよりも腫瘍が大きく、取り出すのも難しく、おへそのところの傷口も当初の予定より大きく切らざるをえなかったこと、また、体内にガーゼが残つて、それを探し取り出すのも思いの外時間がかかったことなどから、予定よりも大幅に時間がオーバーしてしまったことを知りました。

手術中、気管挿管がなされていたのが取り外されると同時に、意識は戻ったものの、激しい眩暈と吐き気におそわれ、気分は最悪でした。両足に取り付けられたポンプがきつく両足を締め付け、その痛みに「足が痺れる〜」と訴えていました。

後で分かったことですが、それは痺れではなくて、ポンプの締め付けによるものだったのです。

個室に戻された後も、自分が自分でないような、自分の体がどうなってしまったのか、とにかく絶え間なく襲ってくる吐き気と酸素マスクの息苦しさ、あちらこちらに繋がれている管(点滴の針、お小水の管、背中の麻酔の管、右横腹から血液を流し受け止めるための管と器、両足拘束のポンプ、酸素マスクなど)による痛みと束縛感は、まるで拷問に遭っているような、生まれて初めて味わう苦しさでした。特に両足を縛り付けているポンプがきつくて痛くて、とても眠ることなどできませんでした。そのような状態で声を上げることもできず、明け方まで結局一睡もできずに朝を迎えました。

眠れぬ夜を過ごす中で、私はただイエス様の十字架を思いましました。イエス様の苦しみはこんなもんじゃなかったんだ。私の罪のために言葉に表せない苦しみをイエス様が負ってくださって、私はただそれを信じただけで罪許されて神の子とされた。なんと感謝していいのか、声には出せませんでしたけれど、心の中でずっと主の名を呼び続けていました。

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになつた。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」

イザヤ書 53章4〜5節

神のみことばの癒しの力

手術前も、術後の最も辛い状況の中でも、ずっと私を力づけ、慰め、癒してくれたのは「神のみことばの癒しの力」でした。幸いにも個室が与えられていたので、私は自分の携帯に取り込んでいた「神のみことばの癒しの力」のCDを、毎日イヤホンなしで聴くことができたのです。私はそれを四六時中聴いていました。絶えず部屋を行き来する医師も看護師もそれを咎めることもありませんでした。自分の声で録音されたこのCDはこれまで多くの方々が利用してくださり、励まされました。癒されました。コメントを寄せてくださり、たくさんの方々にプレゼントされたりして用いられてきたCDでした。しかし、今回、自分自身がこのような病を得て入院生活を送る中で、このCDに録音された神のみことばの癒しの力を、何度も何度も繰り返し聞く中で、どれほど信仰が引き上げられ、強められ、癒され、慰められたか分かりません。これは私の実体験として、皆さんに心からお勧めします。このCDを健やかなる時も、病めるときも、ぜひ聴いていただきたいと願っています。

一 つ目の束縛からの解放

手術翌日の朝、回診で回って来られたT医師に、私は「足が、足の束縛が辛いんです。外してください」と嘆願していました。実はそれが一番痛くて、夜中にやってくる看護師さんにも、これを外してもらえないかと訴えたのですが、それはできませんと断

られていたんです。寝たきりでいると血液の流れが悪くなり、鬱血して、それが体に悪い影響を与え、深刻な症状になることを防ぐための処置でしたが、私にはとても辛いものでした。T医師は「分りました。その足のポンプはもう外していいでしょう」と言われて、付き添ってきた若い医師や看護師さんがポンプときつくはめられた靴下を外してくれました。

私は思わず「ハレルヤ〜」と叫んでいました。

すると、今度は急に血液が流れ出したのか、締め付けられていた箇所が、かゆくてかゆくてたまらなくなりましたが、そこに手を伸ばして痒くことも出来ませんでした。後で何とか少し体を起こして痒いところを痒けるようになってからは、足が傷だらけになるほどかきむしってしまいました。

またその日の夜中に部屋に入ってきた看護師さんに、痒み止めが欲しいと訴えました。でもその看護師さんは「かゆみ止めはありません。タオルで温めたら、もしかして痒みが収まるかもしれませんね」と言って部屋を出て行きました。いつタオルを持って戻ってきてくれるのかと、ずっと待っていましたけれども、とうとうその看護師さんは朝まで戻って来ませんでした。正直痒み位でこんなに大騒ぎする患者さんのことを、面倒見切れないと思っただのかもしれない。(笑) でも痛みも辛いけど、収まることのない痒みも辛くて、睡眠を妨げて、その夜もまた一睡も出来ませんでした。

明け方、ふと思いついて、学院スタッフのめぐみさんが差し入れしてくれた、お顔や手に塗る香りの良いオイルがあることに気

がつき、その油を取り出して、痒い足全体に塗ってみました。するとなんと言うことでしょうか。数分たつと、その痒みがすっかりおさまったのです。ハレルヤ〜！そのオイルをプレゼントしてくださっためぐみさんとそのオイルを塗るようになって気づかせてくださった聖霊様に心から感謝しました。

手術した翌日男性の看護師が「鍛治川さん、今日はレントゲン撮影がありますので、1階まで来てください」と一枚の用紙を置いていきました。私は「えーっ、自分で体を起こすこともできないのに、どうやって1階まで行くの？」と心の中でつぶやいていました。今度は別の優しい看護師さんがやってきて「ベッドのまま行きましようか？それとも頑張って車椅子で行きましようか？」と話しかけてくれました。ベッドごと移動するのは、看護師さんが大変だろうなと考えて「車椅子でお願いします」と答え、看護師さんに手伝ってもらいながら、ゆっくりと体を起こし、ゆっくりとベッドから移動し、車椅子に座ることができましたが、その時のお腹の痛みと言ったら「ああ、痛いー！」と思わず叫び声をあげるほどでした。(涙)

点滴の支え棒やその他諸々の管に繋がれたまま、私は看護師さんに連れられて、一階のレントゲン室に行きました。レントゲン室に入るとレントゲン技師は、こともなげに、立ち上がってここに来てください。と言いました。「立ち上がることもなんかできないよ」と心の中で思いましたけれども、何とかつかまって立ち上がって、お腹の痛みをこらえて、胸とお腹のレントゲンを撮ってもらいました。あーやっと終わったと思った時に、「はい、今度はこちらの台に乗って仰向けに寝てください。お腹のレントゲン

撮ります」「えーっ、そのガラスのように硬い台の上に仰向けに寝るの?」とつてもお腹が痛くて、1人ではその台に上ることはできません。看護師さんに手伝ってもらって何とかレントゲンを撮り終えた後は、自分で上半身を起こすこともできませんでしたが、今度はレントゲン技師と看護師さんの2人がかりで助けてもらい、なんとか車椅子に乗ることができ、無事に部屋に戻ることができました。しかしこれだけでも私の体はくたくたで、どつと疲れが出てベットに倒れ込んでしまいました。

リハビリの理学療法士 K・Yさんとの出会い

数分後に今度はリハビリの先生がやってきて「鍛冶川さん、今日からリハビリが始まりますよ。歩きますよ」と快活な声をかけてきました。話には聞いていましたけれども、まだ手術が終わってから丸1日も経っていないのにもう歩かされるのかと、心の中では悲鳴をあげていました。正直レントゲンを撮りに行ったただけで、すごい疲れを覚えていたので「すみません。今レントゲンを撮りに行って帰ってきたばかりですごく疲れちゃって、少し休みたいんです。あと1時間後ぐらいにしてもらえませんか?」と頼んでいました。リハビリの先生は快く「はい、わかりました。いいですよ。じゃあ1時間後に又きますね」と言って戻っていかれました。寝不足もあって私はそれから1時間ぐっすり眠りました。そしてリハビリの先生が来たときには少し気分が良くなって、その指示に従って立ち上がることができました。まず初めに血圧を測り、それから2本の足で立ってみましょうと言われ、ゆっくりと立ち上がりました。何と、自分の足で立てたのです。

ハレルヤ〜こんな当たり前のことができた喜び!!

感謝が湧き上がってきました。そしてリハビリの先生の助けをもらいながら、一歩、一歩、足を前に踏み出しました。思ったよりも弱っていて、体がふらつき、とても1人で歩ける状態ではありませんでしたが、それでも何とか部屋の中を歩き出し廊下に出ました。ゆっくり、ゆっくり、1歩1歩、足を引きずるようにして、私は前に進みました。「はい今度はそこを右へ曲りましょう」というリハビリの先生の言葉に従って角を曲がり、また次の角を曲がり、そしてまた同じところにいちど戻ってきました。その途中で出会う看護師さんたちが「わーすごい!歩いてる!鍛冶川さん強い!」などの言葉をかけてくれました。それですっかり嬉しくなると、リハビリの先生が「少し休んでからもう一度行きましょうか」と言われたときは、小学生のように「はい、がんばります」と答えていました。

そして同じルートを、痛いお腹を抑え、点滴の支え棒に寄りかかりながら、何とかもう一度歩いて無事部屋に戻ることができました。なんと手術が終わってから半日ちよつと経ったばかりなのに、私はその日病院の廊下を50メートルも歩くことができたんです。自分でも驚きました。ただ、その後、血圧を測ってみると、いきなり175まで上がっていました。この数値は私の人生始めて以来の高い数値で、さすがに驚きました。たった50メートル歩いただけなのに、こんなにも体に負担がかかっていたんだと言っことをこの血圧の数値を見てよく分かりました。もちろんその後私はぐったりと疲れてベッドに横になり、またしばらくは体を起こすことさえできませんでした。

私のリハビリの担当となってくださったのが、Yさんという男性で、とても明るく、素直な性格の方で、私にとってはとても助けになり励まされる方でした。翌日も午後に来てくださいました。前日のがんばりすぎで、血圧が上がったことを反省して、その日は控えめに歩きました。そのかわり廊下の片隅にある丸椅子のところで休みながら、いろいろな分かち合いをすることができました。Yさんは25歳独身でテニスが大好きな好青年でした。猛暑の中でも、仕事が終わってから、毎日のようにテニスをやって、翌日は真っ黒に日焼けしてやってくることもありました。病院からそう遠くない所のアパートに1人で住んでいて、この猛暑の中で、クーラーもなし、扇風機もないと言う話をしていました。とても親しみを感じたので、私も自分がクリスチャンであること、そしてたくさんの方が私のために、この手術のためにお祈りしてくださいっていること、私も全能の神様を信じているので、手術をしてくださるT先生の為にも毎日お祈りし、手術が成功するようにずっと祈っていたことを話しました。そして主人とともに石狩の聖書学院で働いていることも伝えました。そしてその日は部屋に戻った時に、私の証の小冊子をYさんにお渡ししました。

私が入院中1日だけ彼がお休みだった時、別の人にリハビリを変わったことがありましたが、それ以外は最後まで私のリハビリのお世話をしてくださいました。次に会ったときには福音の四つの法則のトラクトと教会のトラクトも渡すことができました。そして彼の祝福のために、手を置いてお祈りすることができました。

この時から私の祈りと願いは、私が退院する前までに、もう一度、彼に明確に福音を伝え、彼がイエス様を信じるようになることでした。

術後の食事について 28日金曜日 術後2日目

水が飲めるようになりました。そして、リハビリのYさんに更突つ込んだ証ができたこの日、あのM・Yさんにも再会することができたのです。私にとって、福音を証しし、伝える喜びと、M・Yさんとの驚きの再会を通して、強く神様の導きと愛を感じる1日となりました。

全てを益としてくださる主

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」ローマ人への手紙 8章28節

私の病が発覚してから、私はひとつだけ、夫にお願いしました。毎日、夕食後に家の中で2人だけの賛美礼拝の時を持ちたいと。夫は私の願いに応えて、ギターを奏でながら毎日1時間ほど賛美と祈りを導いてくれました。ほとんどの曲は私たちが救われた当時の懐メロばかりでしたが、私にとっては何より幸せな至福のひとつとなりました。賛美する私のそばで、猫のげんきも毎夜、幸せそうに寄り添っていました。

長い間、奉仕や働きで手一杯で家の中で賛美することが、いつの間にかできなくなっていた私たちにとつて、これはまさに、主が全てを働かせて益と変えてくださった最高の良きこととなりました。ハレルヤ！感謝します。

主からの語りかけパート2

「あなたが歩んでいる道、それは、今まであなたが通ったことのない新しい道だよ。そこには命の川が流れている。それはあなたのうちから溢れ流れてくる。その命の水は、今、あなたが捧げている日毎の賛美によって、その命の泉から水を汲み出している。わたしはそれを喜んでいいよ。あなたがそれを望んでそれをしたいと心から望んで行っていることを、わたしは喜んでいいよ。その命はあなたのうちから川のように溢れ流れて、そのいのちの川が流れていくところでは、たくさんの癒しが起こり、救いと解放が起こる。そんな計画をわたしはそこでなそうと計画している。

だから、あなたは今のこの状態をひたすら感謝し、喜び、出会う人にわたしの愛を証しなさい。わたしがあなたに与えた恵みと慈しみは、これまでに数え切れないほどあり、あなたのために成した恵みのみわざの数々、あなたはそれを知っている。それを惜しみなく流しなさい。それを語ることがあなたの証。その証には力があるから、わたしはその言葉を通して働く。出会う医師、看護師、患者一人ひとりに、あなたは優しく愛の言葉を流しなさい。

今あなたが通っている道、これは全く新しい道であつて、あなたがこれまでに経験したことがないような命の道だよ。そしてこれはあなたがかつてわたしに捧げた祈りの答えでもあるんだよ。

あなたが、魂の救いを見たい。飢え乾いた魂に出会いたい。そんな人々に証したい。そして自分の証を通して救われる魂を見たいと、わたしに言っただろ。それを今実現しようとして、わたしはこのことを許しているんだよ。だからあなたの病はただ死で終わるものではなくて、わたしの愛のわざが現れるために、わたしが許したんだよ。

だから何も恐れる事は無い。わたしがあなたに送った医師を信頼しなさい。わたしがあなたに与えたその病院を信頼しなさい。人の言葉に惑わされてはならない。わたしはあなたのために彼を選びました。そして手術をするのはこのわたしです。わたしはあなたのうちから、必要のないものを取り除き、その後も完全に元通りにする。だから恐れなくて完全に信頼していなさい。どんな時もわたしはあなたを離れず、あなたを見捨てない。それはわかっているね。わたしはあなたを愛する父だから、わたしに信頼するものをわたしは決して失望させたりしない。安心しなさい。そしてこのことを通して生まれるたくさんの証を、大胆に告げ知らせなさい。多くの病を持つ人々、特にガンで苦しむ人々にとつて希望の星になるとあなたは告白したね。それをわたしが実現しよう。病で苦しむ多くの人々、とりわけまだわたしを知らない希望のない、弱り果てている民のために希望の星とすると私は約束するよ。だから楽しみにしていなさい。今のこの時を喜び感謝しなさい。わたしはあなたと共にいるよ。」

祈りの応答

「天のお父さん、お言葉をありがとうございます。平安をありがとうございます。」

私の証をおしてすべての人を祝福してください。私のために祈ってください。すべてのとりなし手の方々を祝福してください。その祈りが実を奏らせることによって、それらの人々の信仰が引き上げられますように。また祈りの中で、あなたからの言葉が聞くことができますように。霊も魂も体も完全に守られる主、いつも共にいて、一人ひとりを祝福し、その一人ひとりの人生にあなたが立てている最善の計画がなされますように。まだあなたを知らない息子娘たちを救ってください。次男優樹が、あなたを信じて生まれ変わりますように。長男神路が神の子としての人生を選び取ることができるよう、あなたを主とする歩みをスタートしますように。弘恵さんがあなたを救い主と信じますように、葉月も神の子とされますように。健太もすでに神の子ですけれども、妻となった千晶ちゃんに良い影響を与え、千晶ちゃんも救われますように。夫の妹、ゆかりちゃんも、大川さんも、愛理ちゃんも神の子とされ、ゆかりちゃんの病も完全に癒されますように。

夫の弟正博さんの信仰が強められますように。愛する弟修三の心臓が完全に癒されて、長生きできるようにしてください。弟の幸子さんも姪の裕理ちゃんも新たに信仰が増して、あなたを賛美するように、信仰が強められますように。

ハレルヤ感謝します。」

29日土曜日 流動食開始

この日のリハビリは、痛み止めの効果で、お腹の痛みが少し和らいだので、スイスイ歩いて、200メートルも歩けました。その後測った血圧も高くなっていませんでした。感謝です。

ただやはりちゃんと食べてないせいで体力が弱っていて、200メートル歩いた後ですごく疲れてベッドに倒れこみ、その後



2時間ぐっすり眠りました。この日から流動食が出されて、お昼と夕方にいただきます。甘すぎて食べれないものもありましたが、それは残して、重湯とスープだけいただきました。感謝です。この病院の看護師さんは皆さん親切で、この病院は神様を選んでくれた病院なので、嫌な思いをする事は一つもありませんでした。ありがとうございますと感謝の心をいつも表すようにしていました。

ある日、お部屋のゴミを整理しにきてくれた看護助手の女性が「鍛治川先生ですよ。私、卒業生の結実の妹です」と話しかけてくれました。「えーっ、結実ちゃんの妹さん？ここで働いてるんですか？」「はい、鍛治川先生のこと、すぐわかりました。手術うまくいってよかったですね。回復をお祈りします」と言ってくださいました。何ということでしょう。主はこの場所に、クリスチャンの姉妹を置いてくださり、私を励ましてくださっている。

至れり尽せりの主のご配慮に、心からの感謝をお捧げしました。

とりなしの祈りと感謝

私の病が発覚してから、これまでに、一体どれくらいの方々が、私のためにとりなし祈ってくださったことでしょうか。私の方から連絡してお願いした方々は勿論、そうでなくても、あちらからこちらから、人づてに聞いて知った方々や、学院の卒業生たち、海外に住む先生たち、本当に多くの方々が、私の病の癒しと守り、回復の為に祈ってくださいました。その愛と祈りにどれほど支えられたかわかりません。だから私も主が備えてくださった、それらの愛する方々のために、いつも感謝と共に祝福を祈らずにはいられませんでした。

ある夜、1時間ほど主と交わり、たくさんの方のために執り成しの祈りをする事ができました。礼拝したときに、主が大祭司であられることを強く思いました。主は今も私たちのためにとりなしていてくださる。そのことを思うと私も共に祈りたいと思わされました。この病院の先生方、看護師さん、隣の部屋で時々苦しうにうめいている患者さん、その他の患者さん、今この時、病で苦しんでいる全ての方々、そして主の導きのままに、次から次へといろいろな人のために執り成しの祈りをする事ができました。なんと幸いなことでしょうか。こうして病の中にあっても、なすべき良き働きがあるのですから。

この病がなければ、私と主人はこの日、東京にいて、卒業生の大木隆弘兄弟と、鈴木百合香姉妹の結婚式に参列しているはずでした。彼らは私たち夫婦を招き、飛行機代もホテル代も負担して

まで結婚式に参加してほしいと願ってくれたのに、それが叶わなかった事は本当に残念で、このお二人には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし彼らもまた、そのことで少しも嫌な思いを持つこともなく、むしろ私の病の癒しのために、熱く、熱く、とりなし祈ってくれました。

30日曜日 主人初面会

五分粥になって、初めて、ほんの少しお通じがありました。大腸と小腸が、無事繋がった証拠？手術が成功した証拠なの？半信半疑ではあるものの、食べたものが、胃腸や小腸を通り消化されて、大腸で便となり、直腸から排泄される。この普通のことだが、当たり前のことが、わずかなお通じがあったことで、感謝と感激で胸がいっぱいになりました。トイレに行くたびにお腹を抑えなると、排泄できない痛みを伴うものの、腸と小腸の繋ぎ目が、炎症を起こすこともなく、癒着することもなく、しっかりと繋ぎあわされ、通り良き管になって機能している。お腹の中で起こっていることを、自分の目で確かめることはできないけれど、お通じがあったことだけで、これほどまでに喜べる事は、自分にとって本当に新鮮な驚きでした。

また、この日は聖日礼拝で、午後になって夫が術後初めて面会に来てくれました。手術前から術後5日間はずっと個室にいましたので、本当に久しぶりにゆっくりと夫との再会を喜ぶことができました。とは言っても面会時間は、わずか15分であることには変わりなく、あっという間に時は過ぎ去り、又、1人の時間と

なりました。でもそれから毎日仕事帰りに立ち寄ってくれる夫に、あれこれお願いをしたり、ときには夫が作ったコールスローサラダなども持ってきてくれて味わうことができました。私の留守中、夫が料理作りに励んで、その腕を上げたことは、まさに神様がすべてのことを働かせて益としてくださったことの1つとなりました。ハレルヤ！感謝します。



愛猫げんきの異変？

いつも朝は私のベッドまで起こしに来て、ご飯をあげるともりもり食べて、その後はすぐに私の膝に乗り、ブラッシングをして、それが終わると、おやつチュールをねだる。食べ終わったら満足そうに、私の体にぴたりくっついて横たわる。そんな毎日を送っていたげんきにとって、急に私がいなくなった生活はどうだったのか、気になっていました。夫の話では数日間は無事に元気がそうにご飯も食べるし、良く寝るし、変わりないよということでしたが、ある夜のこと、夫が寝ようとして自分のベッドに行ったところ、何と、お布団の上から、ベッドマットに至るまでびっしよりと、おねしょが!!(涙)

そんなこと、これまでに一度もなかったのに、夫はバスタを尽くして、一生懸命げんきのお世話もしてくれていたのに



やはり、げんきにとっては、大きなストレスになっていたんだな—とわかりました。これを機に、度々粗相をしたり、体調を崩すことがないように、私はげんきのためと夫のために必死で神様に祈りました。

幸い、そのようなことは一度きりで、後は何とか守られました。そして勿論、私の退院後は今まで以上に、私にべったりで幸せそうなげんきでした。

31日月曜日 術後5日目の朝

この日の回診で、ついに、私の体を束縛していたすべての管が外され、自由になることができました。何という解放感！思わず両手を高く上げて、ハレルヤ〜！と、声を上げてしまいました。何の束縛も受けずに行きたいところに行ける。術後1番の喜びと解放感を味わった1日でした。

そしてこの日から食事も全粥となり、おかずも形のあるものが食べられて、全てのことを感謝しました。

とても元気そうな私を見て「医師も思わず「もういつでも退院できますね」と本気で言われるので、私は少し焦って「先生、まだお腹の管が外されたばかりで、その穴もふさがってません。痛みもありますから、もう少し病院に居させてください」とお願いしました。そんな私の願いに「医師は笑顔で「週末まではいてもいいですよ」と答えてくださいました。

ただ、個室は緊急の患者さんや手術をした患者さんのための特別室でしたから、私はまもなく4人部屋に移されることになりました。しかし4人部屋で過ごす事は当初から私の願いでもありましたので、なんだか新しいことが起こるようなワクワク感があつて、これからどんな出会いがあるのだろうと、主がなさる新しいことに期待が膨らむ、そんな祝福された1日でした。



そして私が前回検査入院の時に4人部屋で窓側の明るいベッドでとても快適だったので、神様、できれば今回も窓側の明るいベッドをよろしく願います、とお祈りしていました。主はこの祈りを聞かれ、その通りにしてくださいました。

8月1日火曜日 術後6日目

四人部屋に移動、明るい窓側のベッド、全てに感謝！

すぐに同室の方々のお名前をチェックして、とりなし祈り始めました。そしてついにこの日から、普通のご飯になりました。

「えっ、本当にこんなご飯を食べていいんですか？」と、思わず、主に尋ねるほど、全く普通のご飯とおかずでした。普通のご飯とお味噌汁、小さなお魚と野菜の煮物、昔ながらの家庭の食卓に上るごく質素なお食事。しかしそのお食事を食べることができ

るまで回復したことに深い感動を覚えながら、感謝の心でゆっくりゆっくり噛み締めていただきました。

新たな出会い

その頃から看護学校からきた実習生のYちゃんが、度々、私の様子を見に部屋に来るようになりました。私が何かあるたびに、「ハレルヤー！！」と言い、別れ際にはシャローム、と言って手を振るのを見聞きして、彼女はニコニコしながら「その意味は何ですか？」と聞いてきました。私はこの時とばかり「ハレルヤはね、神様を賛美しますという意味で、シャロームは、あなたの上に平安がありますよ」という意味なのよ」

彼女は「そうなんです」と嬉しそうにして、その後も何度もお話を聞かせてくださいと、私のベッドにやってくるようになりました。私が「実習はどうですか？」と尋ねると、小さな声で「厳しくて辛いです」という言葉が返ってきました。訓練生ですから、何をやるのも不慣れで、特にそばに指導する先輩の看護師さんがいる時は、緊張して、脈をとるのも血圧を測るのも、大幅に時間がかかっていましたが、その頃の私は心に余裕が生まれて、そんな彼女にも優しく接して、心の中で彼女の祝福を祈りながら、言葉に出して「あなたの選んだお仕事は素晴らしいものだから、辛い時があっても頑張っている看護師さんになってね」と励ますことができました。

彼女にも私の証の小冊子を渡そうとしましたが、彼女の先生に当たる先輩の看護師さんから「患者さんからは何も、ものをもらってはいけません」と言われ、残念そうに、私に報告するYちゃ

んでした。私はこの女性のこれからの歩み、人生のためにも、心からの祝福を祈りました。

この日、外はこの夏1番の猛暑でしたが、その暑さの中、愛する姉妹の田中輝美さんがわざわざお見舞いに来てくださり、手を置いてお祈りしてくださいました。又、主人の妹と姪が可愛い猫のグッズをお見舞いとして届けてくれました。

さて、この頃から私は退院の時期を祈り始めました。主人とも相談して、あまり早すぎるのは少し不安があるし、早く家に帰りたいと言う思いもある、でも、退院の日に関しては自分の思い願いではなく、主の御心を求めるべきだと気づいて祈り始めました。すると私の心に自分のためではなく、1人の魂の救いのためであると3日はここに残りたい。そんな思いがやってきました。1人の魂の救い、それを具体的に祈ってきましたけれど、それが看護師のYさんの救いなのか、リハビリの理学療法士のYさんなのか、いずれにしても、退院前に私は主の救いのみわざを見たかったです。

退院日を5日土曜日午前中と自分で決めて、T医師にもお伝えしました。

神様が語ってくださいった言葉、あなたが病院の中で証することによって、わたしを求めるものが起こされる。その約束の言葉の実現を見たかったです。退院前までに、主よ、魂の救いを見せてくださいと、真剣に期待を持って祈っていました。そしてついにその日がやってきたのです。

看護師のYさんに関しては、あれ以来なかなか会うことが出来ませんでした。後で彼女自身の口から聞いたことによると「看護師がたくさんいて、ぐるぐる回るとローションで回されて、自分もその日の朝、どの部屋のどの患者さんの担当になるかわからないです」とのこと。やっと彼女に会えたのがちょうど彼女のために祈っていた、4人部屋に移ってから2日目の朝でした。ニコニコしながらやってきて彼女は言いました。「見違えるようにお元気になりましたね。術後の鍛冶川さんと別人のようです。ほんとはよかったです。今日からシャワーにも入ることが出来ますよ。私がお手伝いしますから入ってみましょう。」そう言ってくれたんです。祈りが応えられてもう一度会えたこと、それだけで私の心は喜びに溢れました。そしてこのチャンスを利用してはいけないとシャワー中はお話しながらできませんから、シャワー室に行く前に大急ぎで、彼女に福音の4つの法則と教会のトラクトを渡ししました。

そして術後はじめてのシャワーは、恐る恐るでした。お臍のところから4〜5センチの傷があり、それを取り囲むように四つの小さな穴が開けられた傷跡があって、まだ痛みもあるお腹周りはずっとお湯をかけるだけに留めて、髪の毛や背中はしっかりと洗うことができても本心に身も心もすっきりとして、感謝に満ちてベッドに戻ることができました。

身も心もさっぱりとしたこの日、小野寺夫妻がお見舞いに来てくださいました。真弥ちゃんも一緒に来てくれたのに、面会は2人だけと言われて、残念ながら真弥ちゃんは、駐車場の車の中で待たされる羽目になってしまいました。小野寺夫妻は元気そうに

見える私の顔を見てことのほか喜び、又、手を置いて熱く回復を祈ってくださいました。

更に卒業生の結城ファミリーから、げんきによく似た可愛い猫のぬいぐるみや、アメリカのティムさんからのアレンジフラワーも家の方に届きました。お花は病院に持ち込めませんが、夫は私が喜ぶだろうとぬいぐるみを病院まで届けてくれました。猫大好き、ぬいぐるみ大好き私には何よりの癒しの贈り物でした。

その翌日、退院2日前の3日早朝、私の体調に異変が！

早朝から、体調を崩し、午前中いっぱい苦しみました。

寒気、悪寒、痛みを伴う膀胱炎の激しい症状で、何と午前だけで20回もトイレ通い、間に合わなくておもらしするほど情けない状態で、急遽、解放されていたオムツ生活に逆戻り、泣きそうでした。

何とか午後には、抗生剤や痛み止めを出してもらって、ようやく落ち着き始めた午後3時半頃、リハビリのYさんが約束通りやってきました。

今日は体調が悪いから、リハビリは無理かな？と思っていたのですが、途中でトイレに駆け込むことになってもいいから、彼との時間を大切にしよう決めて、リハビリを始めました。

主が守ってくださいって、ある程度動き回り、廊下を歩き回った後、彼が少し休みましようと言って、廊下の片隅に置いてある丸椅子のところに私を導いてくれました。

その場所は先日もしリハビリの途中で少し休んだ時、私が彼のために祝福をお祈りした場所でした。

少しいろんな話をした後、聖霊様の促しを感じ、私は彼に言いました。「Yさん、イエス様を心に受け入れて、イエス様の御名で、自分で祈ってみない？」すると彼は「はい、どのように祈ればいいですか？」と聞いたので「全能の創り主なる神様はね、偶像の神とは違って、全宇宙を造り、私やあなたを造り、私たちの罪のために身代わりに御子イエス様を十字架につけ、蘇らせてくださり、今も生きているお方だから、私たちを愛して、私たちの祈りを聞いてくださるから、お話するように、何でも祈っていいのよ。」

主の御名を呼ぶものは皆救われるとも、この方を受け入れた人々には神の子供とされる特権をお与えになった、とも聖書に書いてあるので、まずイエス様に僕の心に来てくださいとお迎えしましょう」というと彼は素直に従って、私の祈る言葉を繰り返し、イエス様を心に受け入れました。ハレルヤ〜そして、「これからずっと、僕の主となって僕の人生を導き祝福してください。将来の伴侶もどうぞ良い時に最も相応しい僕にぴったりの人をお与えてください。」

この職場での人間関係を祝福し、僕がいつも喜んで病める人に仕えていくことができるように、愛と力をお与えください。(そして、猛暑の日が続くのには部屋にはクーラーも扇風機もないと聞

いていたので」とりあえず、扇風機を手えてください」と祈りました。(笑)

そして最後に「私を神のごもとしてくださってありがとうございますでございます。主イエスキリストの御名によって、感謝してお祈りします。アーメン！」祈り終えて、彼は、「ニコニコ嬉しそうな笑顔でした。」

何ということでしょう。全能の神様は私が最も弱い時に、私を用いて一人の尊い魂をご自身のもとに引き寄せ、救ってくださいましたのです。私と共に主を褒め称えてください。彼には私の証の小冊子も渡し、読んで感動したと言ってくれていたので、会うたびにイエス様の証しをしていました。とても素直な心の持ち主で、私にも敬意を持って、どんどん質問してくれるので、とても話しやすいです。ですから、退院する前にイエス様を信じて欲しいと、ずっと祈ってました。それが現実のものとなったんです。本当に嬉しくて、嬉しくて、体の不調もすっかり忘れるほどでした。

彼には教会のトラクトも渡し、学院の場所も教えてあるので、主が導いてくださるなら、お休みが取れた時に、やってくるかもしれない。」「いつでもみんな大歓迎してくれますよ」というと「本当ですか?」と、とても嬉しそうでした。

皆さんの力強いとりなしのお陰で、一人の魂が主に立ち返りました。天では大きな喜びがあることでしょう。私の心も喜びで溢れています。主は良いお方！主の御名に、感謝と賛美をおささげします。全てを導いてくださった主に栄光あれー！ハレルヤー！

主は私の祈りに応えてくださり、絶妙のタイミングで、時を備えてくださいました。その翌日は彼のお休みの日で、その日は彼とともにリハビリできるラストチャンスだったのです。

主は約束通り、私の証と伝道を通して一人の尊い魂を救いに導いてくださいました。何と真実なお方でしょう。この時点で、私の手術の痛み苦しみはすべて報われました。

病院の規則で、個人情報交換したり、ラインで繋がったりすることが禁止されているらしく、彼の連絡先は私の手元にはありませんが、何よりも主イエス様が彼と繋がってくれたので安心です。退院してから病院のYさん宛に、聖書を送りました。

彼に救いの確信が与えられ、聖書を読んで、ますます救いを確かなものとし、やがて心さわしい教会に導かれるよう祈っています。

又、入院中ずっと、その救いを1番願って祈っていた、看護師のM・Yさんとは、退院までにイエス様を信じる告白の祈りはできませんでしたが、私は確信しています。彼女の心に撒かれた私の証の言葉と福音の種は、必ず時が来て芽を出し、花を咲かせ実を实らせると。もうすでに主は、私の以前の祈りに応えてYさんを強め、元気に働けるようにしてくださいましたし、必ずその魂をも勝ち取ってくださいと。救いは主のもの、全ての賛美と栄光を主にお捧げします。

この日の夕方、愛する沈先生と南美先生が、激しい雨の中、お見舞いに駆けつけてくださいました。

わずか15分のお交わりの中で、南美先生のお母様が、私よりずっとお若い74才なのに、肺がんが脳にまで転移して、重篤な病状の中にあることを知りました。

お母様は素晴らしい信仰者で、神様が癒してくださると告白しておられると聞き、ちよつと同じ時間に来てくれた夫と共に、お母さんの癒しのため、南美先生の心の平安のため、お祈りすることができました。

次週韓国へお母さんに会いに行く予定の南美先生は、「お見舞いに来たのに、私の方が励まされました」と、涙を流して喜んでくださいました。

自分がこのような病を得て、入院している間にも、あちらこちらから、私も、私の愛する母も、おばあちゃんも、知り合いのあの人も、癌で苦しんでいます。どうかお祈りしてくださいというリクエストがあちらこちらから届くようになりました。又、現在進行形で大腸の深刻な症状で苦しみ続けておられる信仰の大先輩の方のためにも、心を尽くして祈ることができました。自分自身がこのような病を体験したからこそ、

健康な時には想像もできなかった苦しみの中にある方々のために実感と真実味を持つて真心から祈れるようになった事は本当に感謝なことでした。主はそれらの祈りに応えて、癒しのみわざを今日も行い続けてくださっていることを疑わず信じている私です。



退院の日 8月5日土曜日

入院から13日目 手術から10日目

夫とともに、ずっと私を気遣い心配しながら待っていてくれた弟の修三が迎えに来てくれました。自宅に着き、げんきに再会し、お昼は久しぶりのパン食、コーンスープ、主人のコールスローサラダで美味しくいただきました。

弟修三は、猛暑の続く日々の中で、先日も熱中症になりかけて危ないところだったとか、私は自分のことよりも、弟の体調の方がずっと気がかりでした。6人兄弟だった私ですが3人の兄と1人の姉はすでにこの世の人ではなく、この地上にたった2人だけ残された姉弟である弟には、何とか元気で長生きしてほしいと願っています。何度も心臓の手術をし、今も不安を抱えながら生きている弟の祝福と守り、癒しを主に心から祈っています。



今回、私が一番感謝していることは、病にならなければ決して体験することのなかった、神様と人々の愛と恵みを、これでもかと、体験させていただけたことです。

これまでクリスチャンとして生かされてきて、多くの方の祝福や病の癒しのためにも、祈らせていただきましたが、自分が祈ら

れる立場になった時に、そのとりなしの祈りの力強さ、温かさ、
ありがたさを、日々実感させていただきました。

全ては主のお計らいでした。

病が発覚してから、入院、手術、退院、自宅での療養期間に至るまで、ずっと、私を忘れず、離れずに、多くの人が私を励まし、支え続けてくださいました。

私より以前に、同じ大腸の手術を体験された、九州の牧師夫人、米村幸子さんからは、知恵に満ちたアドバイスや「スープの力」という、ヘルシーな野菜スープを簡単に作れる機器を贈っていただきました。どれほど励まされ、役に立ったかわかりません。幸子さんには何でも相談できて、退院するタイミングまで、アドバイスしていただきました。心から感謝しています。

また、知らせを受けるとすぐに祈ってください、アドバンスクリニックという副作用のないマイク口波治療法を紹介してください、スコット・ダウマ先生と直美さんにも、心から感謝しています。この治療法に導かれたので、抗がん剤治療に対する恐れや不安が取り除かれ、精神的に大きな支えとなりました。

所属する教会の菅原牧師夫妻をはじめ、愛する神の家族の皆様には、身にあまる愛と祈り、祝福を注いでいただき、何と感謝しているかわからないほどです。皆様を通して、神様の愛を深く感じることができました。ありがとうございます。

私の勤務先であるCFNJ聖書学院の、スタッフの皆さん、学生の皆さん、先生方、大きな愛と祈りで私と夫を支え、励ましてくださってありがとうございます。

お見舞い金をくださった方々、お花やフルーツや、入院生活に便利なさまざまなグッズを送ってくださいくださった方々、ありがとうございます。入院前から始まり、入院中も、退院してからも、次々と送られてくる美しい花束やアレンジフラワーに囲まれて、最高に幸せでした。

それらの一つ一つに込められた皆さんの愛と祈りを、決して忘れません。与える愛に満ち溢れたキリストの聖徒の皆さん、あなた方の行いはすべて天の記憶の書に書き記されているでしょう。天からの豊かな報いがありますように。

そして、勿論、天のお父様、イエス様、聖霊様、苦しみの中にあっても、しっかりと私の手を支え、守り励まし、癒してください。このことを感謝します。

あなたの御名に全ての感謝と賛美と栄光をお捧げします。
ハレルヤ！

そして最後に、45年間、健やかなる時も、病める時も、私とともにあり、守り導き、助け、支えてくれた夫、私が癌であると診断されたその日、泣きながら私をきつく抱きしめ、真心つくして祈ってくれた夫、私が望むなら、行きたいならどこへでも連れて行くよと、多くの時間を割いて、札幌函館間のハードな運転を

厭わず、私に仕えてくれた夫、仕事をしながら、慣れない食事作りに励み、猫のげんきのお世話をし、いつも私に寄り添い支え続けてくれた夫、利文さん、あなたこそ、イエス様の愛を目に見える形で私に注ぎ、与えてくれた、最高の夫であり、神の人です。

私のリクエストに答え、どんなに疲れている時でも、共に主を賛美し祈ってくれたこと、これが、どれほど私の慰めと力になったことか、その恵みは計り知れません。あなたなしには、この試練を乗り越えることは到底できませんでした。本当に、本当にありがとうございます。(涙)

まさに健やかなる時も、病めるときも、誠実を尽くし続けてくださったあなたに、心からの感謝を捧げ、この証の書を贈りたいと思います。本当にありがとうございます。

あなたの上に神様の恵みと祝福、健康と守りが豊かに、豊かにありますように。

主イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン！ハレルヤ！

感謝の言葉

救い主であり、癒し主であられる、主イエスキリストの聖名を賛美します。

この度は、私の病発覚から、現在に至るまで、癒しと快復のために熱くとりなし祈って下さりありがとうございました。おかげさまで7月26日札幌東徳洲会病院にて大腸がんの腹腔鏡手術を受け、8月5日無事に退院することが出来ました。退院後の約一か月余は自宅にて療養し、リハビリと体力回復に励んで参りましたが、ようやく8月29日から学院のお仕事にも復帰することが出来るようになりました。初めから終わりまで、憐みをもって、私を助け導き、ここまで癒してくださった主の恵みを、証の書としてまとめましたので、感謝を込めてお送りしたいと思います。ご一読くださって、共に主の聖名を崇めて頂ければ幸いです。

退院2週間後に再受診した際、手術の詳細や今後の治療方針などを伺いましたが、他臓器やリンパ節への転移も見られず、抗がん剤などの治療の必要はないでしょうと言われ、ほつと胸をなでおろした所です。今後は3か月に一度の割合で経過観察のため受診しますが、すべてにおいて主が約束通り私を守り、命を支えてくださったことを覚え、感謝の心でいっぱいです。愛する皆様の上に神の恵みと守り、祝福がありますように、感謝を込めてお祈り致します。

本当にありがとうございました。

2023年9月

鍛冶川 紀子



CFNJ 聖書学院 (クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン 聖書学院)

CFNJ 聖書学院は、ゴードン・リンゼイがテキサス州ダラス市に創設した Christ For The Nations Institute を卒業したチャールズ&ダイアン・グリコ夫妻によって、北海道札幌市に1985年に設立された聖書学校です。教派を超えて全て神に仕えたいと願っている働き人の育成の為に設立されました。現在に至るまで、御霊に満ちた多くの働き人を送り出し、日本に於ける神の栄光の訪れと大宣教命令の成就のために前進してきました。

CFNJ 聖書学院は、信徒・教役者はもとより、真のクリスチャンとして生きる為に、実際の訓練を受けたいと願うすべてのキリスト者の為に、広く門戸を開いています。学院の特徴は、

- 臨在あふれる賛美礼拝
- 御霊に満ちた講師陣
- 実践的なカリキュラム
- 海外・国内アウトリーチ
- 独身寮・家族寮完備
- アメリカ留学編入制度 (CFNI 他)
- 国内外からのゲスト・スピーカー
- 賜物を活かし用いるための多彩な選択科目などです。



※詳しい資料をご希望の方は学院事務局までお知らせください。

CFNJ 聖書学院